

# 関東大震災映像デジタルアーカイブ 2021年より公開中の13作品に加えて 「震災タイムマップ」と新たな7作品などを公開

## サイト完結のお知らせ

いつもお世話になっております。このたび、2021年から更新を続けてきたWEBサイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）に、新たなページ「震災タイムマップ」と7点の作品を公開し、サイトを完結することとなりました。また、関東大震災を読み解くためのコラムの新規公開や、本サイトで紹介・言及した文献資料をまとめたサイト、本サイトで紹介した動画が見られる外部サイト一覧も公開します。

つきましては、ぜひとも本サイトのご紹介をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

**公開日時：9月1日（金）正午**

9月1日正午に最終の更新を行い、以下の新規コンテンツを公開します。

- ① 時間と地域の指定で映像を一覧として閲覧できる「震災タイムマップ」を公開
- ② 『東京大震災の惨状』など新たに7作品公開
- ③ 『関東大震災大火実況』『関東大震災実況』などからクリップを新たに9件公開
- ④ 関東大震災映像を読み解くためのコラム（鈴木淳氏、宮間純一氏、山本唯人氏、田中傑氏ほか）を新たに5本公開
- ⑤ 本サイトで紹介・言及した文献資料約180点をまとめた「関東大震災映像デジタルアーカイブ・ビブリオグラフィー」を公開
- ⑥ 本サイトで紹介した動画が見られる外部サイトの一覧「映像で知る関東大震災関連サイト一覧」を公開

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」とは（<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>）

★1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災について、当館が所蔵する関連の映画フィルムなどの資料を公開するWEBサイト（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）。

★「撮影場所」、「シーン（写されている事象）」で分類された「クリップ」単位での検索・閲覧が可能で、作品の詳細をより深く、横断的に見るできるようになっています。

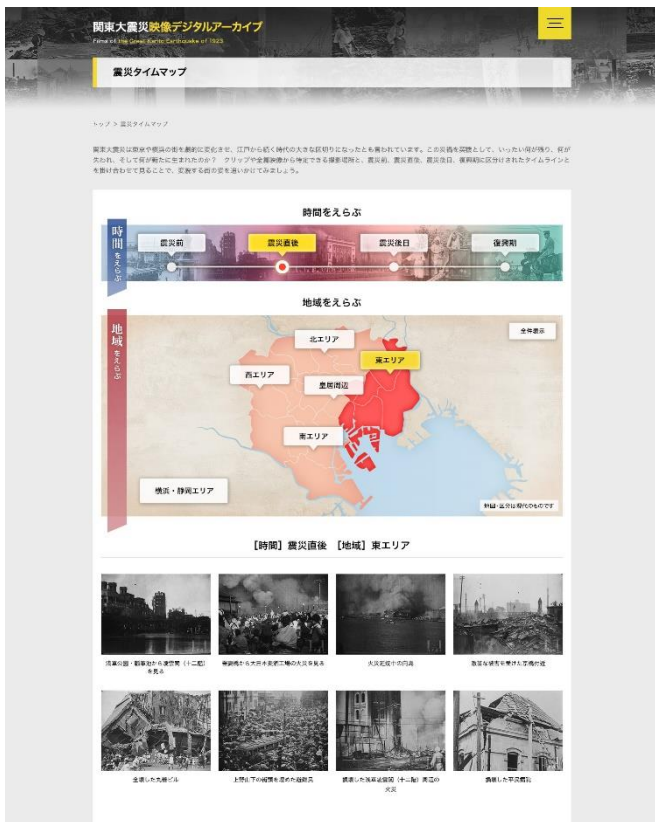
★関東大震災発生から100年にあたる2023年9月1日までに、当館で所蔵する関東大震災関連の全ての映画フィルムの公開を目指し、また分野の異なる専門家が関東大震災映像を読み解くコラムや関東大震災関連の映像に関する資料等を掲載し、随時更新しています。



## ①「震災タイムマップ」詳細

関東大震災は東京や横浜の街を劇的に変化させ、江戸から続く時代の区切りになったとも言われています。この災禍を契機として、いったい何が残り、何が失われ、そして何が新たに生まれたのか？ クリップや全篇映像から特定できる撮影場所と、震災前、震災直後、震災後日、復興期に区分けされたタイムラインとを掛け合わせて見ることで、その変貌の実相に迫ります。

1)



3)



2)



左上（手順 1）：「震災タイムマップ」TOP ページ。時間と地域を選ぶことによって、クリップや該当動画の一覧を表示します。

左下（手順 2）：クリップや該当動画のサムネイルが表示され、再生ができます。

右上（手順 3）：「詳細をみる」をクリックすると、クリップや作品の詳細を見ることができます。

### 【特徴】時間と地域の指定で、震災前から復興期までの映像を一覧として閲覧可能

- ・時間（全部で 4 区分。震災前、震災直後〔震災発生から鎮火した 9 月 3 日 10 時ごろまで〕、震災後日〔9 月 3 日 10 時ごろ以降〕、復興期）
- ・地域（東京を 5 区分に、横浜や静岡とともに、全部で 6 区分）
- ・震災直後と震災後日の映像はクリップで紹介
- ・震災前と復興期の映像は、『大震災以前 帝都の壯観』と『復興帝都シンフォニー』から抜粋

## ②「関東大震災映像デジタルアーカイブ」新規公開作品詳細



『東京大震災の惨状』 宮城前広場に立つ避難生活用のテント

### 『東京大震災の惨状』(1923年)

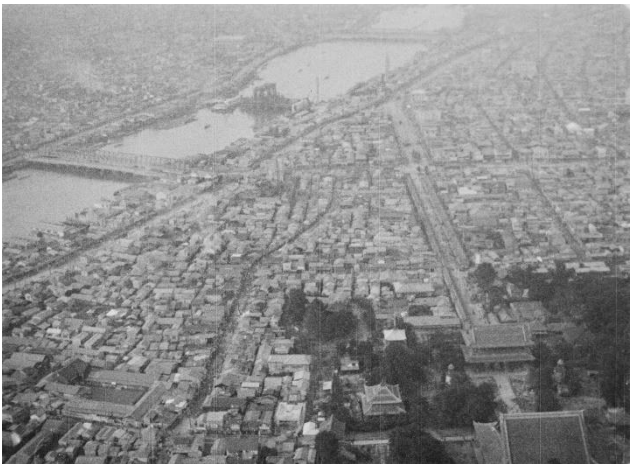
大阪毎日新聞一面のアップから始まり、東京の各所（東京駅、上野駅、神田橋、万世橋、警視庁、帝国劇場、銀座、京橋、上野公園、上野広小路、日暮里駅）の状況が綴られていく。



『第四報 東京大震災惨状』 両国駅の高架から見た本所周辺の惨状

### 『第四報 東京大震災惨状』(1923年)

前半は吾妻橋や両国など隅田川沿岸の被害を紹介、後半では銀座や日本橋の惨状を写し出し、芝浦海岸での救援の様子を撮ったカットで終わっている。



『航空船にて復興の帝都へ』 空中より眺めた浅草公園や隅田川沿いの光景

### 『航空船にて復興の帝都へ』(1926年)

飛行船からの航空撮影によって、急速に復興が進む東京の姿を収めた記録。霞ヶ浦海軍航空隊本部を離陸した飛行船は、常磐線上空を辿りながら、上野を皮切りに本郷、神田、九段、新宿、東京駅、神田、両国、浅草を周遊して帰還している。



『北伊豆震災』 倒壊した家屋の背後に、冠雪した富士山が映る

### 『北伊豆震災』(1931年)

1930年11月26日、伊豆半島北部を震源に発生した北伊豆地震による惨状を、とりわけ激甚な被害に見舞われた地域での取材により紹介した作品。家屋の倒壊や復旧作業に従事する人々の姿に加え、地割れや山崩れの様子も捉え、幅広い記録性がうかがわれる。



『地震と震災』 耐震技術を施した木造建築の模型

### 『地震と震災』(1931年)

今村明恒博士指導のもと、1930年11月26日に発生した北伊豆地震を事例に、地塊の分布や地震発生のメカニズム、地層の変化や建物被害のパターンを紹介するとともに、木造建築の耐震建築について、詳しい解説を施している。



『日本之大地震』 炎上する横浜港に停泊中の船舶

### 『日本之大地震』(1923年)

主に家庭用として販売されていた9.5mmフィルム（パテベビー版）による震災の記録。前半は東京、後半は横浜の震災前と被災状況の描写で構成されている。特に横浜のパートは、停泊中の船に担架で運ばれる被災者など、特筆すべき場面が多い。



『震災後之日本』 海岸に届いた救援物資の移送風景

### 『震災後之日本』(1923年)

主に家庭用として販売されていた9.5mmフィルム（パテベビー版）により、震災後の復旧や救護など日常を取り戻すための諸活動に焦点を絞ったユニークな1本。救護活動の諸相が淡々と綴られている。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当  
電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp